

Oak Wind Symphony

第33回定期演奏会

2017/ 5 / 28 sun

都筑公会堂

主催:Oak Wind Symphony 後援:横浜市文化観光局



ごあいさつ

Oak Wind Symphony
団長 竹内 連

本日はお忙しい中、私どもの演奏会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

私どもOak Wind Symphonyは、前身である柏陽高校吹奏楽部OBバンドでの約18年の活動後、2000年8月に一般バンドとして誕生して17年目を迎えました。年2回の定期演奏会のほか、毎年夏の吹奏楽コンクールにおいては、これまでに神奈川県代表として東関東大会に通算8回出場という実績を残してきました。ここ横浜の地でこのように長く安定的に活動できますのも、ひとえに皆様の温かいご支援の賜物と団員一同心より感謝申し上げます。

本日の演奏会は全3部構成となっております。第2部は特別企画ステージと称して、当団としては初めての試みとなる語り付きの作品を取り上げます。演奏とナレーションもさることながら、この演奏会のためだけに老若男女で構成された「オーク劇団員」による演技(遊戯?)にもご注目ください。第1部の吹奏楽オリジナルステージ、第3部のクラシックアレンジステージと合わせて、吹奏楽編成で表現できるバリエーションの豊かさを本日の演奏会で感じ取っていただけますと幸いです。

最後になりましたが、日頃より熱心にご指導いただいている榮村正吾先生と、本日の演奏会に後援いただいている横浜市文化観光局、そしてご来場の皆様に厚く御礼申し上げます。

1st Stage吹奏楽のための交響詩 **波の見える風景**

真島 俊夫

スケルツァンド

江原 大介

アッフェローチェ

高 昌帥

2nd Stage

～炒飯の達人を迎えて!?～

[指揮] 志水 実雄

炒飯の撻 チャイニーズゴングと吹奏楽のための

福島 弘和

3rd Stage

バレエ「スパルタクス」より

スパルタクスとフリーギアのアダージョA. ハチャトゥリアン
arr. G. モロー

バレエ音楽「ガイーヌ」より

序奏、友情の踊り、アイシャの孤独、剣の舞、収穫祭

A. ハチャトゥリアン
arr. 林 紀人**指揮 榮 村 正 吾**

1991年東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。

在学中に安宅賞受賞、東京文化会館新人音楽会に出演。シェナ・ウインド・オーケストラのサクソフォーン奏者として1年間活躍。卒業後アサヒビール芸術文化財団の助成金を受け渡仏。フランス国立セルジー・ポントワース音楽院高等科に入学。1992年、パリ国際コンクール第2位受賞。同年同音楽院を首席で卒業、1993年、レオポルド・ベラン・コンクールにおいて第1位および大賞受賞。同年同音楽院演奏科を修了。

フランスをはじめ、ベルギー、イタリア、デンマーク等ヨーロッパ各国において演奏会、音楽祭に出演、好評を博す。帰国後東京文化会館において第1回リサイタルを開催。NHK-FM土曜リサイタルに出演。第10回ワールドサクソフォーンコングレス(イタリア)、同第11回(スペイン)にそれぞれ参加。

サクソフォーンを佐藤典夫、大室勇一、富岡和男、須川展也、ジャン=イブ・フルモーの各氏に師事す。

現在、シェナ・ウインド・オーケストラ サクソフォーン奏者、昭和音楽大学講師など幅広く、精力的に活動している。



吹奏楽のための交響詩 波の見える風景

海は風と共に波という表情をみせます。さざ波、磯波、横波、荒波。寄せては返す波の姿に、私たちは社会の厳しさを重ね合わせ、波にもまれながらも生きていく自分を省みるのです。

「波の見える風景」。この曲は1985年の全日本吹奏楽コンクール課題曲Bとして世に出ました。コンクールが終わると1年で演奏されなくなる課題曲も多い中、この曲は人々に愛され、30年経った今でも演奏され続けています。

作曲者真島俊夫は当時36歳。今吹奏楽に関わる人々には「ニュー・サウンズ・イン・プラス」シリーズなどの編曲者、「三つのジャポニスム」などの作曲者として知らない人のいない存在ですが、作曲当時はまだ無名でした。

洒落た和音にそこはかとなく香る和のティスト、木管楽器のソロの絡み合い。2つの主題が入れ替わり立ち替わり、形を変えて織りなす風景は、まさに日本の海の四季を思い起こさせます。この海は真島俊夫のふるさと鶴岡の海でしょうか、それとも上京後に親しんだ、太平洋岸の海原でしょうか。

真島俊夫は2016年4月21日、逝去しました。享年67。

(Alto Clarinet／河村俊志)

アッフェローチェ

アッフェローチェは、2014年の春日部共栄高等学校吹奏楽部委嘱作品です。

作曲者の高昌帥(こう・ちゃんす)氏は大阪出身で、プロ・アマ問わず多数の委嘱作品の作曲や市民バンドの指導などで現在もご活躍中です。

作曲者はこの曲についてこのように述べています。

「ゆったりとした優しい曲調と、テンポの速い激しい曲調とが交互に現れます。作曲中はもちろんのこと作曲を終えた後も、相反する性格を持った部分から構成されるこの曲の特徴を、一言で上手く言い表すことの出来るタイトルを見つけることが出来ませんでした。」

タイトルの「Afferoce(アッフェローチェ)」は悩んだ末の作曲者の造語で、愛情深くという意味の音楽用語「Affettuoso」と、荒々しくという意味の「feroce」をつなげたものです。

そのタイトル通り、冒頭のオーボエの情感豊かなソロから始まり、木管楽器が優しい旋律を奏でたかと思えば、突然、変拍子の荒々しい掛け合いが始まります。複雑に絡み合うリズムや場面転換が高昌帥氏の曲の魅力でもあります。

二つの対照的な音楽の対比をお楽しみください。

(B♭ Clarinet／志水玲子)

スケルツァンド

本年度の全日本吹奏楽コンクール課題曲のうちの1曲です。

吹奏楽コンクールは、吹奏楽界の夏の風物詩。毎年課題曲が発表され、各校・各団体がより高みを目指して集います。

【作曲者である江原氏による曲紹介文】

明るい雰囲気でおどけた感じの曲ですが、より完璧に演奏するにはスコアを読み解き、音楽の仕掛けを見つけることがカギになります。そして、それらを意識しつつも決して『軽快さ』を失わないように、音楽の流れを上手に操作しながら演奏して頂けることを願っています。曲の内容について、特に和声に関してはあまり素直でない部分が多いと思います。決して単純にはいかない曲ですが、どのようにして響きに色彩と立体感を与え、全体をどう表現すべきかを追求して頂ければと思います。

本曲は、第27回朝日作曲賞受賞作品です。

(Bass Clarinet／清水育子)

司会 金重 陽平

俳優
舞台からTVドラマまで、
密かに活動中



<http://www.ayersrock.jp/kanesige/main.html>

炒飯の撻

♪炒飯の達人を迎えて！？♪

『炒飯を食べればその店の腕がわかる』という格言がある。料理人には炎を使いこなす卓越したテクニックが必要だ。メシの1粒1粒が互いにくっつき合ってはいけない。しかしパサパサになってもいけない。それが、炒飯の撻。

吹奏楽雑誌『バンドジャーナル』2016年7月号の付録用楽曲として作曲されました。「『あまりソロ楽器として聴く機会の少なそうな楽器』に焦点を当てて」という企画に沿ったもので、過去にもギロ(打楽器の一種)や、バスクラリネットでのソロ曲が同誌の付録になっています。

今回の曲では、『楽器庫に眠っているような打楽器』に何か面白そうなものがないかと考えたときに、チャイニーズゴングが候補に上がったそうです。チャイニーズゴングは2015年の吹奏楽コンクールの課題曲で使用され大活躍だったのですが、やはり特殊な打楽器であるため、通常あまり使われずに眠っていることの多い打楽器です。

チャイニーズ、という名の通り、チャイニーズゴングの響きは中国や中華を連想します。福島氏も『中華料理的なイメージと重なってきたので、今回の題名になりました』と語っています。

【炒飯の歴史】

炒飯が食べられるようになったのは、米食中心の食文化が生まれた唐代・宋代の頃と考えられています。この時期は米食のみならず竈(かまど)の発達や鉄器技術の進歩と普及も同時に行われたようです。竈の発達によって、燃料もそれまでの薪から石炭などの火力の強いものに切り替わり、鉄器技術の進歩と普及が中華鍋を生み出したと言われています。この二つの進歩が炒め物や揚げ物を普及させるきっかけになったのです。

【炒飯の仲間】

炒飯は様々な国で発展し、その土地の味を築きました。スープで炊いた米を炒める調理法が台湾に根づき、インドを経てシルクロードを渡ってトルコではピラフとして定着。東南アジアではナシゴレンやビリヤニ。アメリカに渡って変化をとげ、ジャンバラヤ。日本では焼き飯とも呼ばれています(定義づけはなく、焼き飯は鉄板料理の際に鉄板で焼くものを指すのではないか、と推測されます)。

お手軽な家庭料理でもある炒飯は、困ったときのお助けメニュー！ですが、中華料理店で食べる本格的な炒飯はやはり格が違います。強火であぶられてパラリと仕上がったご飯、ふんわりとした卵、名脇役のネギ、なんといってもチャーシュー… お供についてくるスープも素敵です。

今夜のメニューは炒飯で決まり！ですね！

(Bass Clarinet／清水育子)



達人
？？？？



指揮
志水栄雄



チャイニーズゴングソロ
加藤結香



語り
戸井真智



Арам Ильич Хачатуров

Արամ Իլյիշ Խաչատրյան

アラム・イリイチ・ハチャトゥリアンは、ソヴィエト連邦の作曲家。プロコフィエフ、ショスタコーヴィチと共にソ連3巨匠の1人と称される。

1903年ロシア帝国領だったグルジアの首都トビリシの製本工の家に生まれたアルメニア人で、幼少の頃から、カフカサス地方の民族音楽を聴いて育つ。

1921年モスクワに行き、翌1922年モスクワ大学植物科、さらにグネーシン音楽アカデミーに入学、まずチェロを学び、1925年から同アカデミーの作曲クラスに入り作曲家としての才能を認められた。

1929年からモスクワ音楽院でミャスコフスキイに作曲を学び、1937年以降ソヴィエト作曲家連盟の中心的存在として活躍。

1942年にアルメニアに題材をしたバレエ『ガイース』が大成功をおさめ、1944年にはソ連邦アルメニア国歌（ソ連崩壊に伴い1991年廃止）を作曲。

第二次大戦後の1948年になると、ソ連共産党による現代音楽批判と統制（いわゆる「ジダーノフ批判」）が行われる。ソ連国内の多くの作曲家が対象とされ、ハチャトゥリアンも例外ではなかった。スターイン死去後に宣言が解除され名譽を回復し、その後は指揮者としても活躍した。

1978年没（享年76）

バレエ「スパルタクス」より スパルタクスとフリーギアのアダージョ

バレエ『スパルタクス』は、ローマに対して反乱を起こしたことで知られる奴隸たちの指導者スパルタクスの物語です。ハチャトゥリアンは1954年にバレエ音楽を作曲し、レーニン賞を受賞しています。

バレエは1956年にレニングラードのキー・オーフ劇場で初演され、この時は大きな成功を収めることができませんでしたが、後にロシア革命50周年記念として1968年ボリショイ劇場で初演されたグリゴローヴィッヂ振付版が大絶賛を受け、現在に継承されています。ロシアのバレエ団のレパートリーとして多く上演され、ハチャトゥリアンの最も有名な作品のひとつです。

紀元前ローマ。クラスス率いるローマ帝国軍の奴隸となったスパルタクスとその妻のフリーギア。クラススに買い取られたフリーギアは弄ばれ、スパルタクスは宴席の余興で目隠しをした決闘をさせられ仲間の奴隸を殺してしまいます。スパルタクスは自由を取り戻すため、剣奴たちと共に立ち上がり反乱を起こし勝利を収めます。

本日演奏する『スパルタクスとフリーギアのアダージョ』は、自由となったスパルタクスとフリーギアが愛を確かめ合う（※）場面で、抒情に満ち溢れた美しい曲です。

※ いろいろな解説には「逃亡した2人が自由を祝う」と書いてあるのですが、どうしても「祝う」がしっくりこないので、あえてこのような表現にさせていただきました

さて、一度は戦いに勝利したスパルタクスですが、クラススに命乞いをされ彼を解放していました。スパルタクスへの復讐を決意するクラスス。そこで彼の愛人工ギナは奇策に出ます。自分の手の内の遊女を送り込んで剣奴たちを誘惑するのです。すっかり骨抜きにされて弱体化してしまったスパルタクス軍。そこにローマ兵たちが襲い、スパルタクスは串刺しにされ壮絶な最期を遂げます。フリーギアが夫の遺体を前に死を悼み幕を閉じます。

スパルタクスは共産圏において抑圧からの解放を求める労働者階級の英雄として崇められていました。わかりやすいストーリー。退廃のローマ帝国と戦う英雄。しかも命乞いされたら助けてしまういい人。そんな主人公が卑怯な手段により無残に殺されてしまい、最後に残るモヤモヤ感。バレエをひととおり観ると、やはりこれがソ連時代の作品なのだと感じます。

（Percussion／田中祐一）



バレエ音楽「ガイーヌ」より 序奏、友情の踊り、アイシャの孤独、剣の舞、収穫祭

「スバルタクス」と並ぶハチャトゥリアンの代表的なバレエ作品が、「ガイーヌ」です。

実は、このガイーヌという作品には、まったく異なる二つのあらすじがあります。

あらすじ①

ソヴィエトの集団農場（コルホーズ）で働くガイーヌは、夫のギコが仲間を裏切り密輸に手を染めていることを知ります。

夫への愛情と正義の間で思い悩むガイーヌですが、最後にはギコの悪事を告発します。ガイーヌは新しい恋人とも出会い、新たな幸福を手に入れます。

あらすじ②

ガイーヌの恋人アルメンは、同じ狩人のゲオルギーと固い友情で結ばれています。しかし、ある日に出会ったアイシャへの思いを巡り、二人の間に確執が生じてしまいます。

彼ら4人は愛情や友情に思い悩み苦しむのですが、収穫祭の日に思いを打ち明けあい、改めて愛情と友情を確認するのでした。

①は、1942年に初演された際のもので、当時のソヴィエトの社会情勢を反映して社会主义的正義を讃える内容となっています。一方②は、1958年にモスクワで再演された際のもので、政治色は退けられ、人間の感情の揺らぎをよりクローズアップしたものになっています。

また、あらすじが大幅に変わったことにより、曲も大きく書き換えられ、全体の3分の1程度の曲が入れ替えられています。

一般的に、オペラやバレエは、上演される会場に合わせて、舞台装置や演出が変更されることはあるのですが、ここまでストーリーが大幅に変わるのは珍しいことです。主人公の名前が「ガイーヌ」であることを除けば、ほぼ別の作品と言っても間違いないくらいです。

このように、曲の成り立ちには複雑な事情を抱えてはいますが、バレエ全編を通して描かれる、民族色あふれるリズムや響きは多くの人を惹きつけてやみません。とりわけ「剣の舞」は単曲としても頻繁に演奏され続けています。

本日は改訂版から「序奏」「友情の踊り」「アイシャの孤独」「剣の舞」「収穫祭」の5曲を抜粋してお送りします。

(Percussion／志水栄雄)



Conductor

榮村正吾

Oak Wind Symphony

☆: 団内指揮者 ♪: パートリーダー

Flute & Piccolo

♪ 荒井みちえ
石塚琳子
大熊真悠子
小林みなほ
竹内恵美
中俣美幸

E♭ & B♭ Clarinet

石井敬子
☆ 井上正人
岩下直紀
志水玲子
須江麻未
高島百合野
竹内連

Soprano & Alto Saxophone

池田彩紀
☆ 小野剛司
櫻井秋来
関香子
長島央和

Trumpet & Cornet

阿部泰子
木村正宏
上妻知世
齋藤博樹
♪ 佐々木結衣

Euphonium

川口莉奈
♪ 松谷俊介
吉田愛

Tuba

五十嵐史生
伊藤優里
室岡裕介

Oboe & English Horn

池田茉莉
貞頼恵
♪ 松林雄一

Tenor Saxophone

西野笑弥
堀下美樹

Trombone

草彌真彩
高渕良介
♪ 戸井真智
檜垣美春

String Bass

松浦清人

Bassoon

石井優衣
望月智文

Alto & Contra Alto Clarinet

河村俊志

Baritone Saxophone

河合由葵
川崎明樹

Bass Clarinet

清水育子

Horn

石川夏織
♪ 高橋研介
☆ 高橋志帆
田中美紗樹
原田木舞

Bass Trombone

石毛遙
森重雄太

Percussion

池見浩
加藤結香
小林由佳
貞松真紗子
☆ 志水栄雄
♪ 田中祐一
田中晴菜



《 団員募集について 》

◎ 募集条件

高校生以下不可(高校卒業見込の3月から可)
基本的に、ご自身で楽器を用意できる方(打楽器以外)
初心者の方は当団側で受入態勢を整えられない場合があります。

- ◎ 練習日 : 原則毎週土曜日夕方(本番前は追加練習あり)
◎ 練習場所 : 横浜市南区を中心とした公共施設
◎ 連絡先 : meet-oak@oakwindsymphony.sakura.ne.jp

現在、募集を停止していますが、8~9月頃の再開を予定しています。募集を再開次第ホームページでお知らせします。

Oak Wind Symphony 第34回定期演奏会

日時 : 2017年12月頃(予定)

場所 : 横浜市内公会堂(予定)

♪ 「サガ・キャンディダ」~魔女狩りの七つの印象~
(B. アッペルモント)

♪ ビッグバンドステージ
♪ ポップスステージ

ほか



詳細が決まりましたらホームページでお知らせします

最新の情報は
ホームページを
ご覧ください!



<http://oak-wind.sakura.ne.jp/oak/>